

通販支援の

仕掛人に聞く

「90%は訂正できる」

API「正しい住所」の提案も

住所辞書の開発・販売などを手がけるレムトス（本社・東京都葛飾区、金子明代表取締役）は、住所クリーニングシステム「漢帝」の普及に注力している。通販サイトでのユーザーの住所の入力ミスなどを自動で訂正するもので、処理件数などの従量課金モデルで展開。他にない独自のサービスとして、ネット販売事業者を対象に利用を勧めていく考えだ。果たしてどのようなメリットがあるのか。金子明代表取締役役を話を聞いた。

（聞き手は本紙記者・河崎悠太郎）

90%まで上げようと思
い、6年がかりで精度を

「CSVでデータをやる。文字列が間違っている。例えば、訂正した住所の候補が一つに決まればいい。あれは次回から利用しなな文字が入っていたり、が、複数出てしまうと分くなるだろう。住所の入そうしたものを見せない。そこで、複数候補がのり、ほぼ完成している。出る確率を下げた。この損は大きい」。APIを通じて住所をクリーニングするサービスは、ある程度整ったものを修正し、修正できなかったものは一件ずつ人が見ているのだが、その間に間違いがあった場合は「この住所ではありませんか？」と代わりの住所を表示する。市町村合併レベルの訂正なら処理時間は1レコードで0・01秒かからない。処理時間を区切るタイムアウト機能もあり、自由に設定できる」

「どういう経緯で住所を開発したことがあったのか調べてみると、ま所クリーニング『漢帝』が、使い物にならなかつた。誰もできていないことを開発したのか。た。で、その当時は『でが分かった。それで、再

上げた」

入するメリットは。

れた場合に新しいものにストと時間がかかってし

「ターゲットは。

「40年ほど前に住所誤きこない」という結論ひ取り組んでみたわけに達したのだが、それかだ。6年前に85%訂正でらだいな縫ち、住所誤りきるレベルに達したが、の訂正の状況がどうなっ85%だとキリが悪いので

「我々の住所辞書デーを大幅に削減できる。その号が入っていないものを住所訂正で重要なのはメンだが、運送会社に違っている住所を自動訂品の未着も防ぐことがでものだ。書かれている住ないときできないが、やほと正するというもの。訂正きる。例えば、記念日に所が正確なことが前提にりロジックがないと駄目でメ

レムトス

金子明 代表取締役



「精度を上げるため贈るギフト商材などの未着はトラブルに発展するようになる。持っていない同じサービスもあるし、企業の信だ、我々から見ればそれスを作るのは難しい」

「候補を絞り込めるた用低下にもつながる。初は訂正に入らないと思」

「初年度の目標は。このサービスで5000万円が目標だ」